61

天災は忘れた頃にやって来ると言われるが、科学者たちは未だにいつ 大きな地震が起きるかを予知することもできていない。

【時制と文構造】

「天災は忘れた頃にやって来る」は永遠の真実を語る諺なので**半永久的**と言える。よって**現在形**。「いつ大きな地震が起きるか」は**未来の推量**でかつ現実的な話なので**will**〈近い形〉か**be going to** (\Rightarrow p.27/『文法矯正編』p.84)。

【表現研究】

● 天災

- ① natural disasters (△) 🖙 man-made disasters との対比
- ② disaster(s)
- (○) ☞ 可像名詞・不可像名詞の両方がある
- 3 calamity
- (×) ☞ 《まれ》
- 4 catastrophe
- (×) ☞ 「大異変」: 大げさ

〈限定用法の形容詞は対比を暗示する〉(⇒『文法矯正編』p.258)ので、①natural disasters は man-made disasters 「人災」との対比で使う。 calamity は頻度が低い。この語から英米人が連想する語は Calamity Jane (カラミティー・ジェーン: 米国開拓時代の射撃の女名手 Martha Jane Burke (1852-1903) の通称)だそうだ。

●忘れる

- ① least expect \sim (\bigcirc) >「いちばん \sim を予期していない」
- ② forget ∼
- (×) ☞ 「~という言葉・概念を忘れる」
- ②forgetと書くと「天災って何だっけ?」という意味になってしまう。

● やって来る

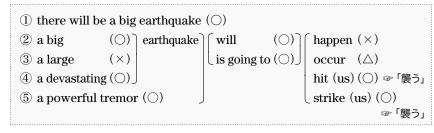
- come (×) ☞ "待っている方に近づく": 天災が待ち遠しい?
- ② hit (〇)☞「襲う」:活用 hit-hit-hit
- ③ strike (○) ☞「襲う」:活用 strike-struck-struck [stricken]

「(災害・嵐が) 襲う」には②hitや③strikeを用いる (⇒p.93)。

●~と言われる

- ① They say that SV ~ (○) ② It is said that SV ~ (○) ☞ ~は諺 or 名言 (⇒p.165) ③ I hear that SV ~ (○)
- ② It is said that SV ~の~は諺的な表現が来るので本間では可。

● 大きな地震が起きる



「地震」は英語圏ではあまり起きないので、「起きる」に相当する語句がない。 よって①の**there is構文**で代用するのがふつう。**hit/strike「襲う**」は可。

● ~を予知する

predict ~ (○) ☞「(科学的に) ~を予言する」
expect ~ (×) ☞「(1 回限りの特定のこと) を予期する」
foresee ~ (×) ☞ nobody could have foreseen ~という句のみ
foretell ~ (×) ☞「(占いで) ~を予言する」
tell ~ (○) ☞ can / be able to と使って「判断できる」の意味

「地震の予知」は**科学的な予**言なので①**predict**が最適。⑤tellを用いても可。

英訳例

- (A) They say disasters strike when (they are) least expected, and scientists are still unable to tell exactly when there will be a big earthquake.
- (B) You hear disasters strike when you least expect them. In fact, scientists are still not able to predict exactly when a powerful tremor is going to hit (us).